

ぼくの家メディア

桜木小・6

ぼくの家メディアは七割がラジオ、二割が新聞、一割がテレビです。このような生活になったのは、一年前の母とのやりとりがきっかけでした。五年生のとき、ぼくは学校から帰ると長時間テレビを見てから宿題をやっていました。そのため、母が帰ってくる時間になっても宿題をやっていることばかりで、ついに、テレビがしまわれてしまいました。それから一ヶ月後、テレビのない生活の中でラジオを聞くようになり、ラジオのおもしろさを知りました。そこで、テレビを見る代わりに

「ラジオ買って。」

と母にたのむと、その日のうちに買ってくれました。

テレビがしまわれる前は新聞をほとんど読んでいませんでした。しかし、今の生活になって「新聞も読んでみようかな？」という気持ちになり、よく読むようになりました。読んでみると、新聞はテレビより、よりくわしくニュースを知ることができるということにも気づきました。テレビでは取り上げられないニュースもあって面白いことにも気づき、ひまなときにもつい、新聞を読み直してしまいうようになりました。新聞を読み直すと一回目よりおもしろく感じて、そのニュースについてもっと知りたいと思うことが増えるようになりました。

今の生活になってから、最初はテレビを見なくなるのがよくあ

りましたが、今はラジオの内容を想像することが楽しかったり、いろいろな曲を知ることができたり、テレビやスマートフォンでは知ることができない情報を聞くことができ、わくわくしながら聞いています。ぼくが、ラジオや新聞を聞いたり見たりしていると「すごいね」と言ってくれる友達もいれば「かしこぶってる」と言う友達もいます。そんなみんなに言いたいのは「テレビやゲーム、スマートフォンがなくても過ごせるぞ」ということです。

ぼくはゲームとスマートフォンを持っていません。だから「かわいそう」と言われることがあります、そんなことはありません。最近になってから自分の中でも納得した言葉があります。それは、

「やることのないときは、探せばある。」

です。最初はテレビがしまわれたから、やることのないと思っていましたが、テレビがなくなったことで、自分で考えて使える時間ができました。例えば、宿題の漢字は終わっていても自分のためにもう一ページやったり、部屋のそうじをしたりすることができました。だから今は、テレビがしまわれて良かったと思えるようになりました。また、母に言われなかったら、ラジオのおもしろさに気づけず「ラジオ買って」という一言なんて出なかったと思います。

さらに、本のおもしろさにも気がつきました。本を読んで物語を想像すると、物語の中に入りこんだ気持ちになったり、説明文だったら学校では勉強しない、いろいろな生活の中で大切なことを勉強できたりすることを実感しました。

このように、今の生活になってから、自分の知らなかった世界を知ることができるようになりました。また、とてもうれしかったこ

とは、テレビ以外のメディアやできた時間を通して、家族と話す時間や話の話題が増えたことです。前はゲームがあつていいなと感じるときがありました。でも、ラジオや新聞があるだけで十分楽しく生活できることが分かり、それに気づかせてくれた母に感謝しています。

今はスマートフォンなどを持っていることが当たり前な時代です。スマートフォンなどの機械は、知らないことを調べるのに便利ですが、このようなことだけで時間をつぶすのはもったいないと思います。ラジオや新聞で話題をもちこんで、話すことでも楽しく過ごせることができると思うようになったことをうれしく思います。また、ニュースやエンタメはスマートフォンなどでも知ることはできますが、歌や住んでいる地域のことは、ラジオや新聞でしか知ることができないこともあります。今では、テレビがあつたときよりも、ラジオや本、新聞などの時間が楽しいので、それに気づくことができ、本当に良かったです。これからもラジオや新聞などのメディアを取り入れた生活を続け、新たな「おもしろさ」を見つけていきたいです。